

平成24年産夏秋野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- ・ 6～8月は、北日本から西日本では暑夏となり、猛暑日となった所もあった。また、西日本は多雨となり、たびたび大雨が発生した。
- ・ 9月は、北日本中心に記録的な高温となった。また、台風第16号と第17号による大雨・暴風・高波・高潮が発生した。さらに、東日本で日照時間がかなり多く、北・東日本の一部で中旬にかけて少雨となった。
- ・ 10月は、北日本で高温となった。また、東・西日本で日照時間が多かった。

2. 生産・供給

- ・ 梅雨明け以降の好天により、全般的に順調な生産となった。
- ・ 夏秋キャベツは群馬産を中心として、夏だいこんは青森産及び北海道産を中心として、秋にんじんは北海道産を中心として、概ね順調に出荷された。
- ・ たまねぎは、府県産の貯蔵ものの出荷が不作により少なかったが、後続の北海道産の出荷が順調であった。
- ・ 夏はくさいは、7月出荷分を10月以降の作型に変更した長野産を中心に出荷が減少した。
- ・ 夏秋レタスは、長野産及び茨城産を中心に潤沢な出荷がされた。

3. 需要・価格

- ・ 8月は1年の中で家計での購入が1番少ないことに加え、本年は猛暑により消費が伸びず、夏場に需要の少ないだいこんやはくさいだけでなく、キャベツ、にんじん、レタスについても安値で推移した。
- ・ たまねぎは、供給量が少なかった府県産の出回り時期は高値であったが、後続の北海道産の出荷とともに価格は下がり、9月下旬以降平年を下回った。
- ・ はくさいは、8月に北海道で発生したO157による食中毒の影響により、加工業者等が原料のはくさい購入を控える動きもおきた。

1. 平成24年産夏秋キャベツの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
夏秋キャベツ (7～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、群馬、長野、北海道ともに前年並みの見込み。 ・生育状況は、生育初期に低温の影響により、生育の遅れが見られたもの、その後は、生育が回復し、作柄は良好。 ・出荷量は、期間を通して、前年及び平年を上回る見込み。 ・期間を通して順調な出荷が見込まれ、かつ、8月上旬までは、関東近在産地の出荷が続くことから、価格は、7月以降概ね平年を下回って推移する見込み。 ・ただし、8月下旬以降、台風や長雨等の影響によりレタス相場が上昇すると、代替需要によりキャベツの需要が増加し、価格は上昇する可能性がある。 	<p>(入荷量)</p> <p>主産地の群馬産、岩手産とも全出荷期にわたって生育が順調に推移したことから、7月は、順調な出荷に加え、群馬産が7月に出荷を増やす作型に変更したことから、前年よりかなり増加した。8月は、岩手産が出荷増となったものの、群馬産が出荷を7月に前倒ししたことから、前年よりかなり減少した。9月は、生育が順調であったものの、緊急需給調整が実施されたこともあり、前年よりやや少なくなった。10月は、主産地からの出荷が増え、前年よりやや増加した。</p> <p>期間全体としては、前年並みで、平年並みであった。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:100)</p> <p>(価格)</p> <p>7月は、前年よりかなり入荷増となったことから、前年を大幅に下回った。8月は、中旬に前年より高値となったものの、前月の入荷増により流通在庫を抱えてしまった量販店等もあり、前年をかなり下回った。その後、9月には緊急需給調整が実施されたが、主産地の生育が順調であったため、安値傾向で推移し、9～10月は、不作で高値であった前年及び平年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:62)</p>	<p>※ 北海道、岩手県、群馬県及び長野県において、緊急需給調整を9月7～20日に実施</p>

注)「実績」については、「東京都および大阪市中心卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産夏秋キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

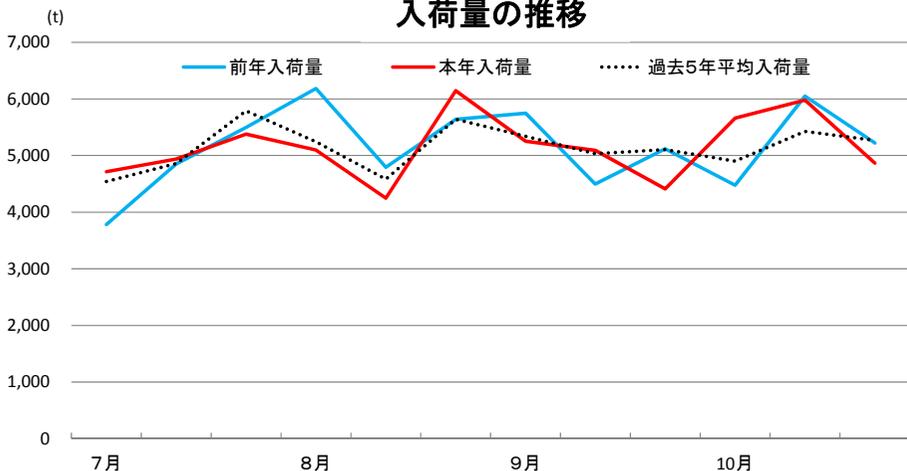
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	125	102	98	82	89	109	91	113	86	126	99	93	100
	106			93			96			105			
過去5年平均比	104	102	93	97	93	109	98	101	86	115	110	92	100
	99			100			95			106			

卸売価格対比

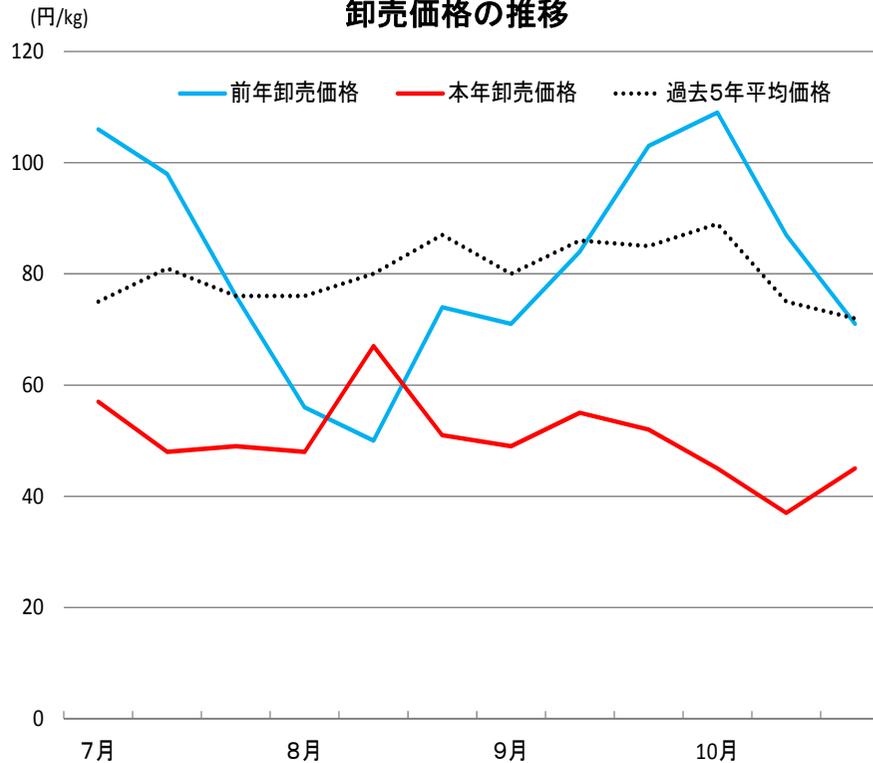
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	54	49	64	86	134	69	69	65	50	41	43	63	62
	55			90			61			48			
過去5年平均比	76	59	64	63	84	59	61	64	61	51	49	63	63
	66			67			62			54			

(参考2) 平成24年産夏秋キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

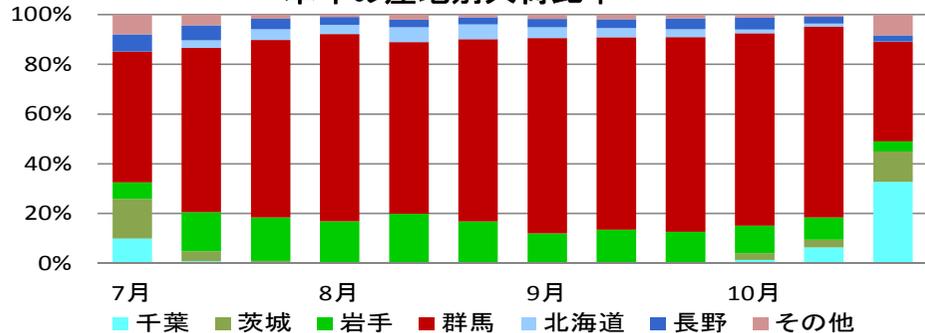
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

2. 平成24年産夏だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(9月下旬時点)	備考
夏だいこん (7～9月)	<ul style="list-style-type: none"> 作付面積は、北海道及び青森は前年をわずかに下回り、岐阜は前年をやや下回る見込み。 生育状況は、融雪の遅れ等による播種の遅れや干ばつの影響等により、生育に遅れが見られる。一部の産地においては、連作障害も見られ、品質は低下傾向。 出荷量は、7月は前年を上回り、8月は前年を下回り、9月は前年を上回り、全体としては、前年をやや上回り、平年並みの見込み。 主産地においては、平年並みの出荷が見込まれるものの、総じて需要が減少する時期であることから、価格は、概ね前年及び平年を下回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、青森産が残雪による播種作業の遅れから生育が後れ出荷減となったが、低温による生育後れが回復した北海道産が順調な出荷となったことから、前年よりかなり増加した。8月は、生育後れが回復した青森産が順調な出荷となったが、北海道産が高温の影響等で後半少なくなったことから、前年よりやや減少した。9月は、北海道産が上旬まで高温の影響による出荷減が続き、青森産が7月中旬の降雨による播種作業の遅れから出荷減となったことから、前年よりわずかに減少した。</p> <p>期間全体としては、前年並みで、平年をやや下回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 100)</p> <p>(価格)</p> <p>季節的に家計での消費が少ない上に、高温の影響からさらに消費が減退したと見られ、前年が安値であった8月中下旬以外は、前年を大幅に下回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 81)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産夏だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

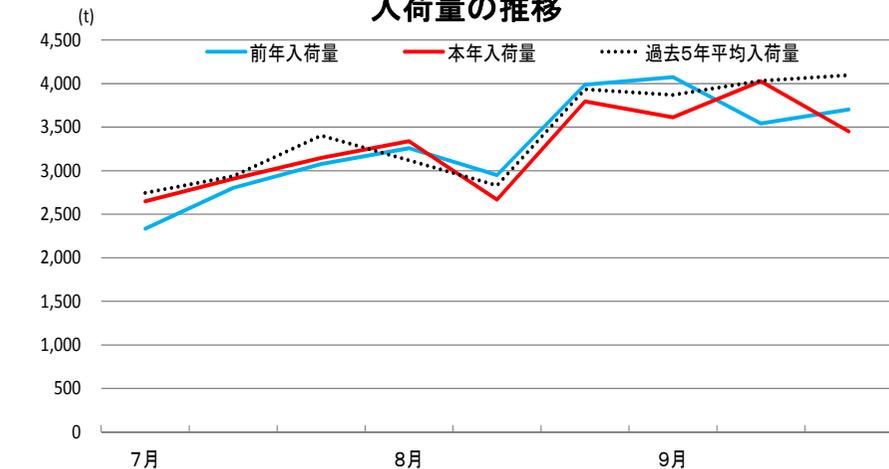
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	113	104	102	102	90	95	89	114	93	100
	106			96			98			
過去5年平均比	96	99	92	107	94	96	93	100	84	96
	96			99			92			

卸売価格対比

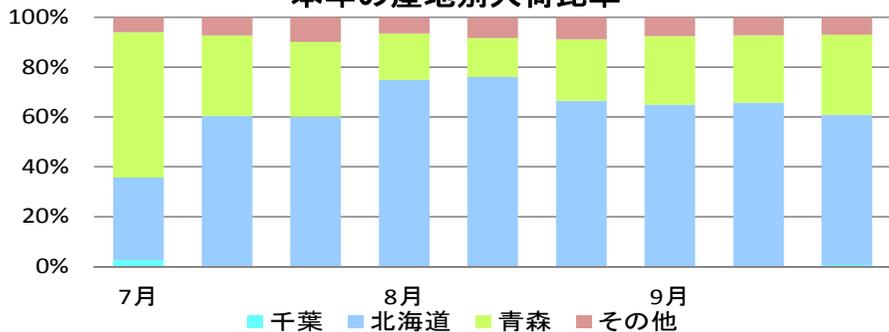
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	80	76	72	83	108	101	86	73	67	81
	75			97			75			
過去5年平均比	95	83	85	72	75	79	86	83	87	82
	88			76			85			

(参考2) 平成24年産夏だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

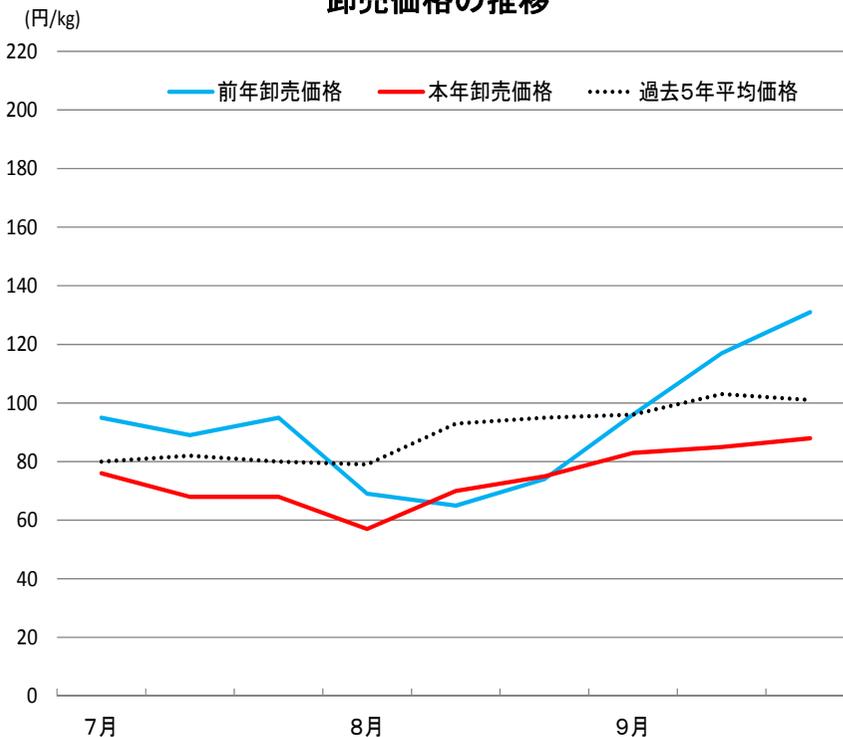
入荷量の推移



本年の産地別入荷比率



卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター

3. 平成24年産たまねぎの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
たまねぎ (7～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、北海道及び兵庫は、前年並み、佐賀は前年をわずかに下回る見込み。 ・生育状況は、佐賀及び兵庫は、降雨による定植の遅れの影響等により生育の遅れが見られ、小玉傾向。北海道は、生育が極めて良好であったが、一部のほ場において、干ばつの影響が見られる。 ・出荷量は、8月までは前年を下回り、9月以降は前年をかなり上回り、全体としては、前年をかなり上回るものの、平年をかなり下回る見込み。 ・佐賀及び兵庫の出荷が前年を大幅に下回ることから、価格は、8月までは前年を上回ると見込まれるが、9月以降、価格は、前年を下回る見込み。 ・国産の価格が高くなると、消費者の輸入品への抵抗感が薄れてくる一方で、中国において生産量が減少して輸入価格が上昇し、国産との価格差が縮小すれば、国産の加工・業務用需要が増加する可能性がある。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、兵庫産(貯蔵もの)が小玉傾向ながら前倒し出荷されたが、佐賀産(貯蔵もの)が不作の影響で出荷減となり、前年をやや下回った。8月は、後続産地の北海道産が順調な出荷であったものの、兵庫産が上旬までの前倒し出荷の反動で中旬以降出荷減となり、前年よりかなり減少した。9月は、引き続き北海道産の出荷が順調であったものの、兵庫産の出荷が例年より早めに終盤を迎えたことから減少し、前年よりわずかに入荷減となった。</p> <p>10月は、北海道産が台風17号の影響で一時出荷がストップしたものの、前年をやや上回った。</p> <p>期間全体としては、前年をやや下回り、平年をかなり下回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 96)</p> <p>(価格)</p> <p>7～9月上旬は、佐賀産、兵庫産の不作による入荷減から前年を大幅に上回って推移したが、北海道産の出荷が本格化した9月中旬以降は前年を下回り、10月は、前年を大幅に下回って推移した。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。 (7～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 125)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

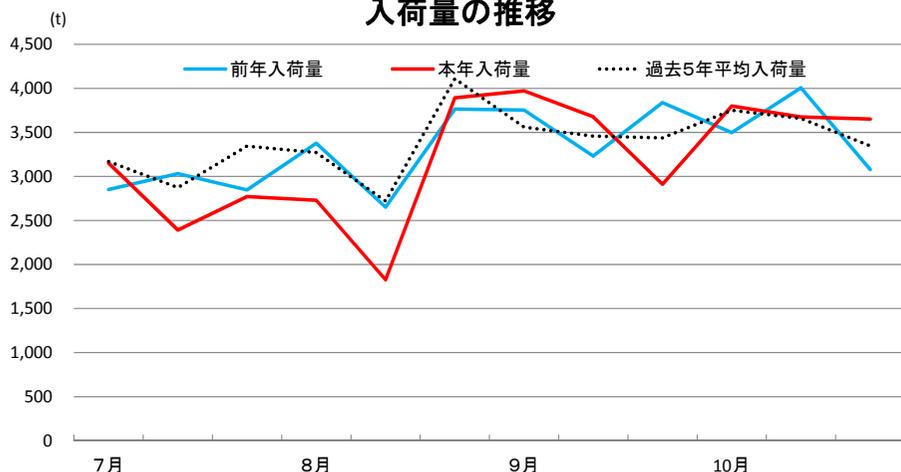
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	110	79	97	81	69	103	106	114	76	109	92	119	96
	95			86			98			105			
過去5年平均比	99	83	83	83	67	95	112	106	85	101	100	109	94
	89			84			101			103			

卸売価格対比

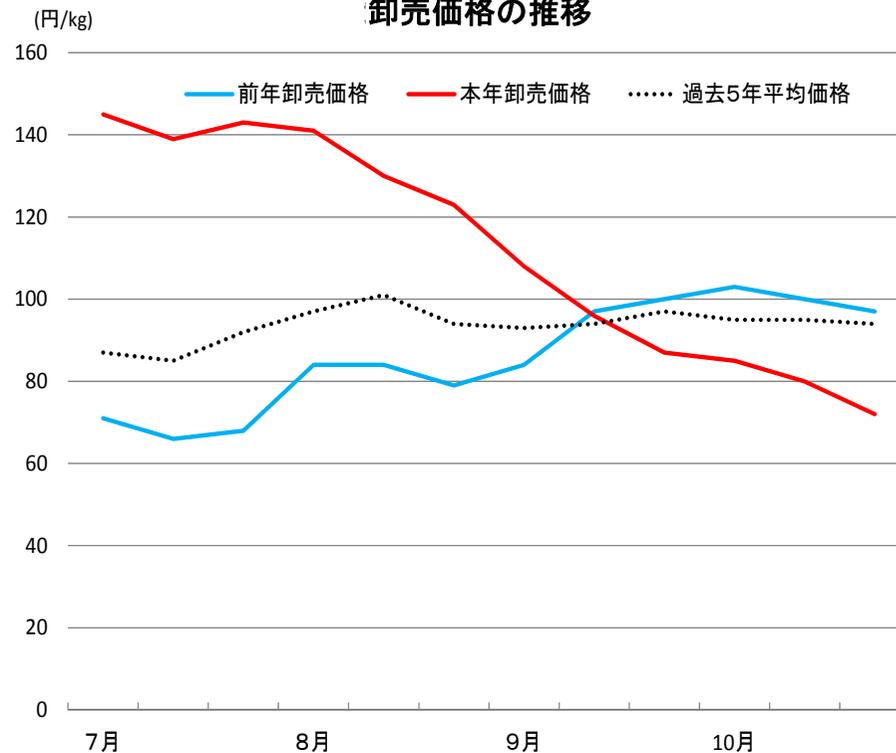
	7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	204	211	210	168	155	156	129	99	87	83	80	74	125
	209			159			104			79			
過去5年平均比	167	164	155	145	129	131	116	102	90	89	84	77	116
	161			134			104			83			

(参考2) 平成24年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

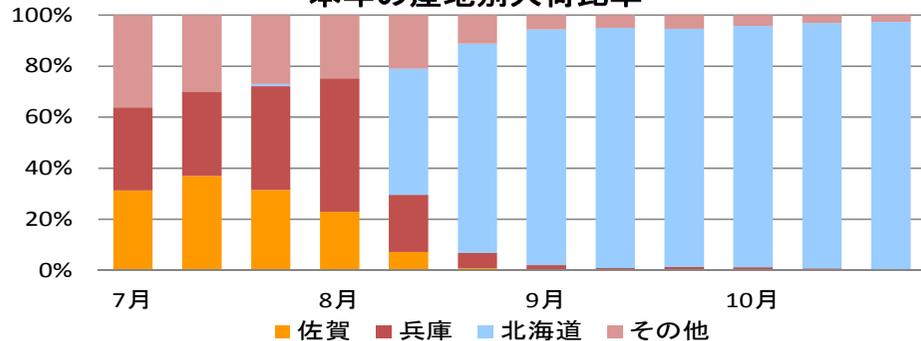
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター

4. 平成24年産秋にんじんの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
秋にんじん (8~10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、北海道は前年をやや上回り、青森は前年をやや下回る見込み。 ・生育状況は、融雪の遅れや降雨等により播種が遅れたが、その後は生育が回復し、現在は3~5日程度の生育の遅れが見られる。 ・出荷量は、8月以降、前年及び平年を上回る見込み。 ・出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っていた価格は、8月以降平年並みに近づく見込み。 ・加工・業務用需要は、価格次第で輸入品にシフトするが、中国産が安いことから、北海道産の出荷が本格化するまで、中国産の需要が強い可能性がある。 	<p>(入荷量)</p> <p>8月は、出荷終盤の青森産が減少したものの、北海道産が順調な出荷であったことから、前年よりかなり増加した。9月は、北海道産が高温・干ばつの影響のため小振りの出荷となり、前年よりかなり減少した。10月は、北海道産の生育回復により順調な出荷となったことから、前年よりかなり増加した。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をやや上回った。 (8~10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 103)</p> <p>(価格)</p> <p>8月は、潤沢な入荷量となった前年を大幅に下回り、9月は、入荷量が前年を下回るものの小振りのため安く取引されるなどにより前年をかなり下回り、10月は、再び潤沢な入荷量となったことから、前年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (8~10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 79)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産秋にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

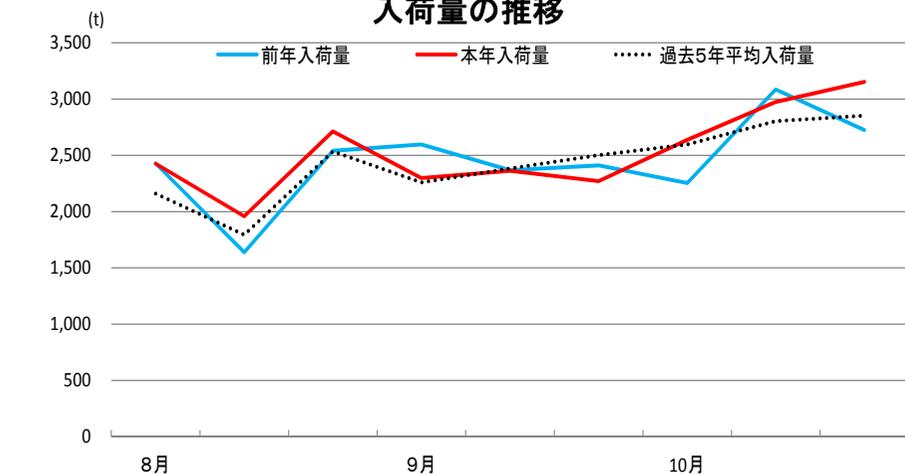
	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	119	107	89	100	94	117	96	116	103
	107			94			109			
過去5年平均比	112	109	107	102	99	91	102	106	111	104
	109			97			106			

卸売価格対比

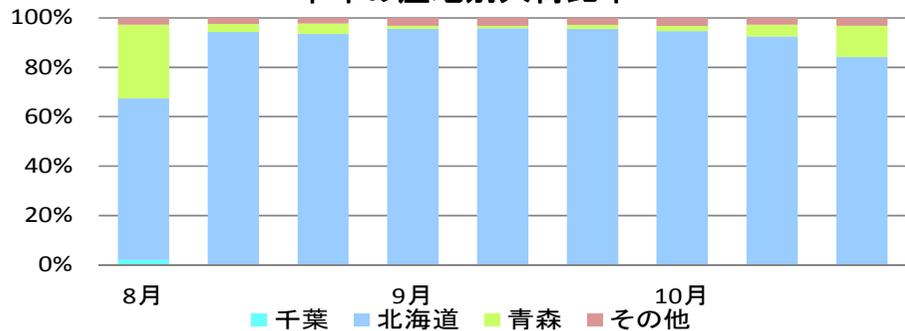
	8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	84	79	75	84	95	86	76	65	77	79
	79			89			72			
過去5年平均比	78	75	71	77	84	84	90	75	74	79
	74			82			80			

(参考2) 平成24年産秋にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

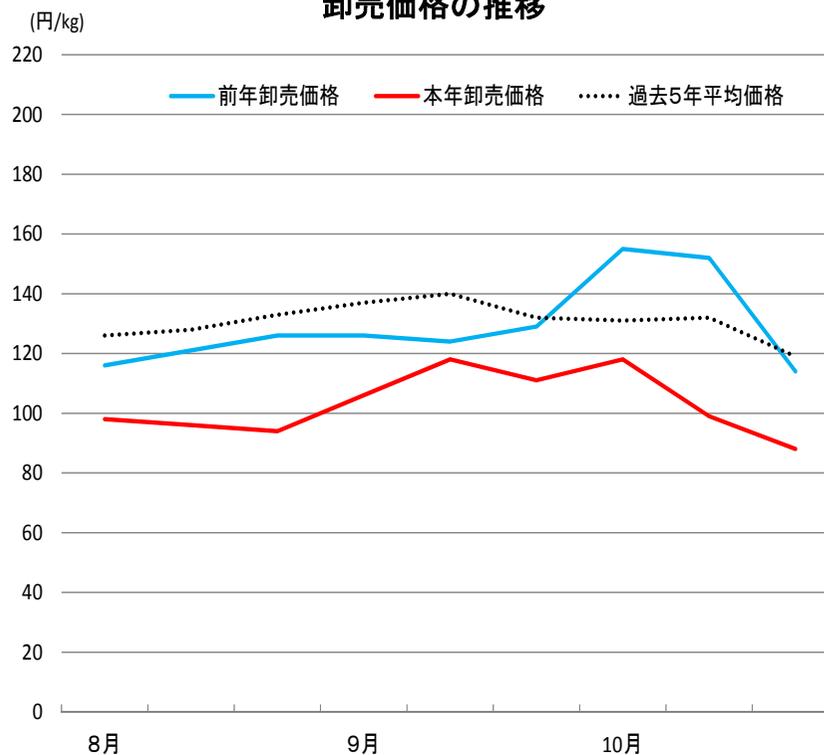
入荷量の推移



本年の産地別入荷比率



卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター

5. 平成24年産夏はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(9月下旬時点)	備考
<p>夏はくさい (7～9月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作付面積は、長野は前年をわずかに上回り、北海道は前年をやや下回り、群馬は前年をわずかに下回り、全体としては、前年並みの見込み。 ・生育状況は、天候に恵まれ、順調な生育となっている。 ・出荷量は、7月は長野が作付面積を減少させたことから、前年をやや下回るが、8月以降は前年及び平年を上回る見込み。全体としては、前年及び平年をわずかに上回る見込み。 ・小売店において、1/4等のカット販売を行っているものの、夏場は加工・業務用を含め特に需要が少ないことから、順調な出荷が見込まれる中で、価格は、8月までは前年並みで平年を下回る見込み。 9月は前年及び平年を下回る見込み。 	<p>(入荷量)</p> <p>7月は、長野産が好天により生育が順調で、上旬は潤沢な出荷となったが、7月出荷分の作付面積を減らしたこともあり、中旬以降入荷減となり、前年よりかなり減少した。8月は、長野産が少雨の影響等により前年をかなり下回り、平年をやや下回った。9月は、長野産が順調な生育であったが、緊急需給調整が実施されたこともあり、前年をやや下回り、平年をかなり下回った。</p> <p>期間全体としてはほぼ前年及び平年をかなり下回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:93)</p> <p>(価格)</p> <p>季節的に需要が少ない時期であることから、7月は、前年をかなり下回ったが、8月は、上中旬の入荷減を背景に前年を上回って推移したものの、下旬以降は、北海道で発生したO157による食中毒の影響により、加工業者等が原料のはくさい購入を控えたこともあり、再び安値となり、9月は、緊急需給調整が実施されたものの、前年及び平年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (7～9月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:70)</p>	<p>※ 北海道及び長野県において、緊急需給調整を9月7～20日に実施</p>

注)「実績」については、「東京都および大阪市中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産夏はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

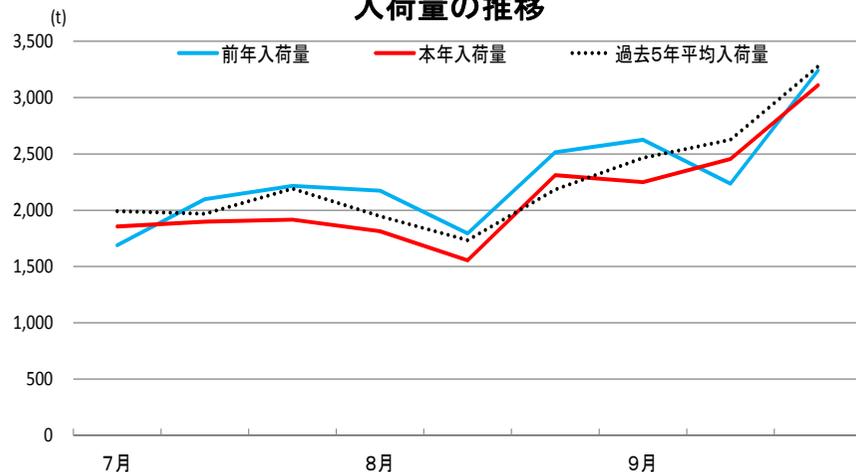
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	110	90	86	83	87	92	86	110	96	93
	94			88			96			
過去5年平均比	93	96	87	93	90	106	91	94	95	94
	92			97			93			

卸売価格対比

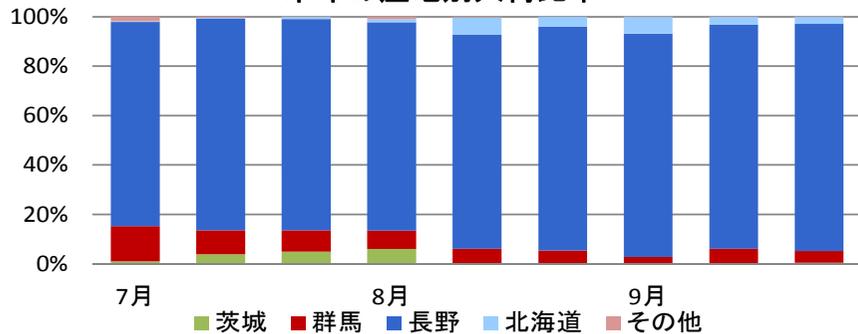
	7月			8月			9月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	86	80	91	110	138	82	59	46	45	70
	86			105			49			
過去5年平均比	95	80	84	89	100	55	52	61	62	70
	86			76			58			

(参考2) 平成24年産夏はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

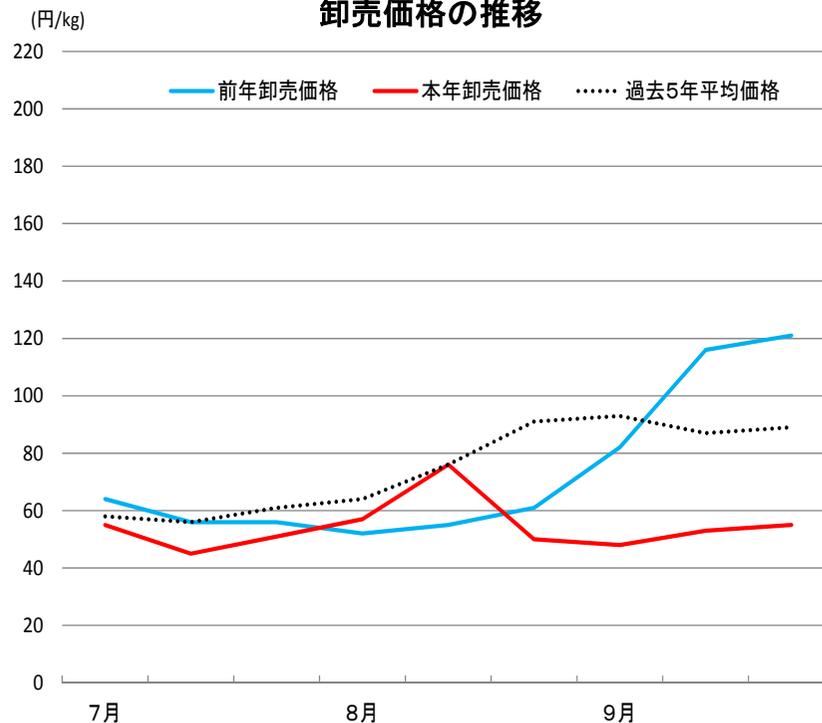
入荷量の推移



本年の産地別入荷比率



卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター

6. 平成24年産夏秋レタスの需給・価格見通しと実績の対比

	前回の委員会(24.7.12)での見通し	実績(10月下旬時点)	備考
夏秋レタス (6～10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作付面積は、長野が前年をわずかに上回り、群馬及び茨城は前年並みの見込み。 ・ 生育状況は、一部の産地において低温による生育の停滞が見られたが、生育は概ね順調。ただし、天候に左右されやすい品目であることから、天候次第では、生育が大きく変化する可能性がある。 ・ 出荷量は、7月及び10月は、出荷が多かった前年を下回るものの、平年を上回って推移する見込み。8月及び9月は前年及び平年を上回って推移する見込み。全体としては、前年及び平年を上回る見込み。 ・ 平年を上回る出荷が見込まれることから、価格は、概ね前年及び平年を下回って推移する見込み。 ・ 加工・業務用においては、レタスに対する根強い需要がある一方で、カット野菜においては、他の野菜と競合する場面も見られる。 	<p>(入荷量)</p> <p>6月は、群馬産が台風等の影響で入荷減となったが、長野産が順調な出荷となったことから、前年よりやや増加した。7月は、長野産が上旬に大玉傾向で潤沢な出荷で、中下旬には大玉傾向が解消して入荷減となったものの、前年よりわずかに増加した。8月は、長野産及び群馬産が順調な出荷となったことから、前年よりかなり増加した。9月は、引き続き長野産、群馬産が順調な出荷となったことから、入荷量は台風で入荷が少なかった前年を大幅に上回った。10月は、終盤を迎えた長野産が少なくなったものの、後続産地の茨城産の出荷が順調なことから、前年をかなり上回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年をかなり上回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比: 110)</p> <p>(価格)</p> <p>6月と7月は前年を上回ったものの、潤沢な入荷となった8月以降は、不作で高値であった前年及び平年を大幅に下回った。</p> <p>期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (6～10月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比: 74)</p>	

注)「実績」については、「東京都および大阪府中央卸売市場における入荷量・価格の動向」等をもとに作成。

(参考1) 平成24年産夏秋レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比

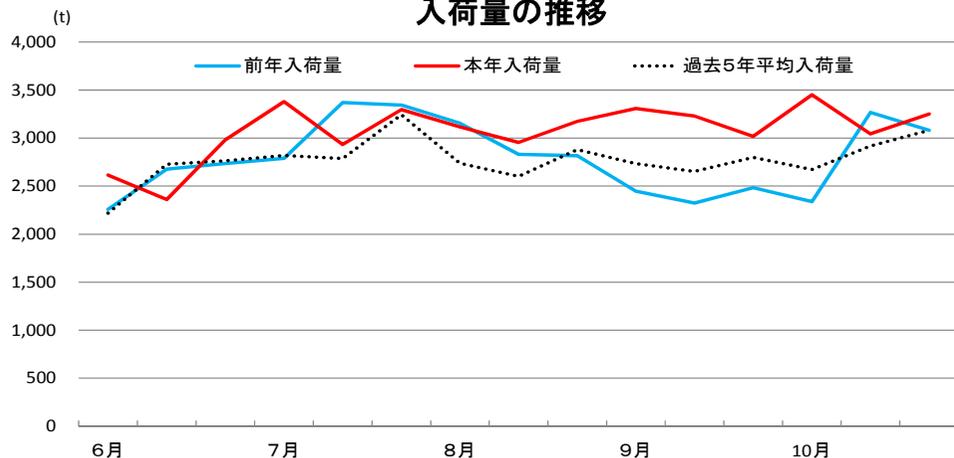
	6月			7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	116	88	109	121	87	99	99	104	113	135	139	122	148	93	105	110
	104			101			111			132			112			
過去5年平均比	118	87	108	120	105	102	114	114	110	121	122	108	129	104	105	111
	103			109			119			117			112			

卸売価格対比

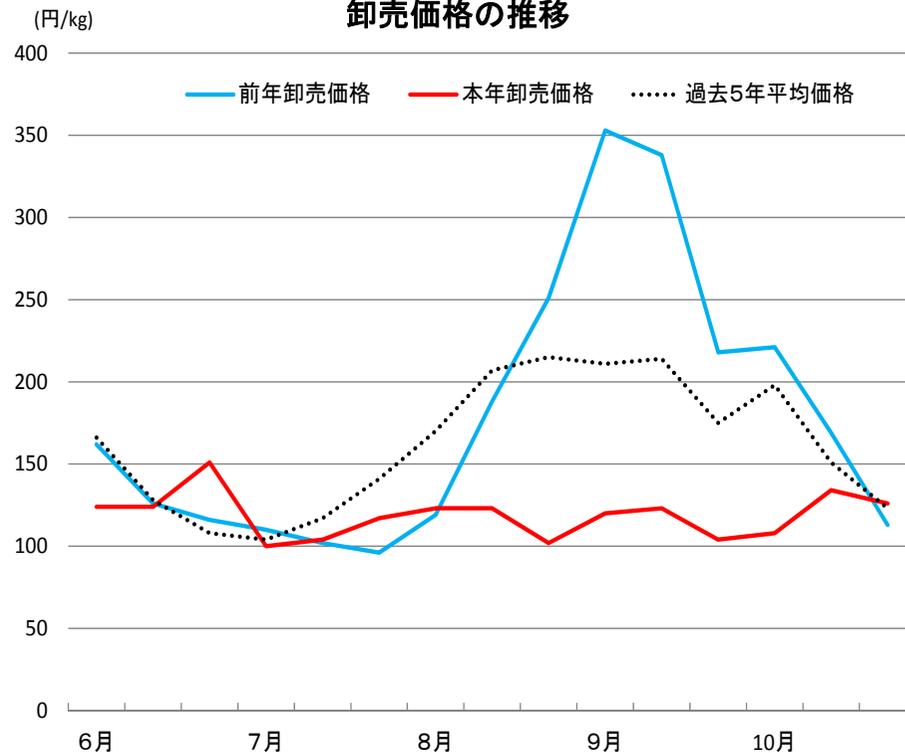
	6月			7月			8月			9月			10月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	77	98	130	91	102	122	103	65	41	34	36	48	49	79	112	69
	101			104			66			38			75			
過去5年平均比	75	97	140	96	89	83	72	59	47	57	57	59	55	89	102	74
	102			88			61			58			79			

(参考2) 平成24年産夏秋レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

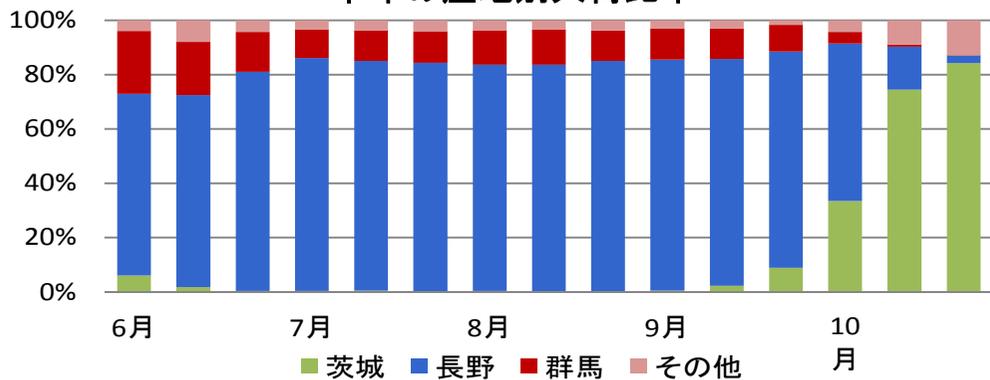
入荷量の推移



卸売価格の推移



本年の産地別入荷比率



資料：東京青果物情報センター